

一般研究集会（課題番号：2019K-03）

集会名：災害メモリアルアクション KOBE 2020

主催者名：人と防災未来センター，京都大学防災研究所

研究代表者：河田 恵昭

所属機関名：公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター

所内担当者名：京都大学防災研究所 都市防災計画分野教授 牧 紀男

開催日：令和 2 年 1 月 11 日（土）

開催場所：人と防災未来センター東館 1F こころのシアター

参加者数：200 名（所外 198 名，所内 2 名）

・大学院生の参加状況：0 名

研究及び教育への波及効果について

阪神・淡路大震災を経験していない学生が本研究集会に参加することで、震災の教訓を教え伝える立場になるための人材育成になることや、地域の防災活動参加による震災の記憶継承、未来へ続く防災・減災への貢献を期待する。

研究集会報告

(1)目的

阪神・淡路大震災を経験していない学生が、様々な地域や学生同士の交流のなかで震災を追体験し、震災から何かを受け取り何をどう伝えていくべきかを考える場とします。

今回は、防災を、「わたしたちの大切な出来事を、だれかの大切な未来へつなげる試み」ととらえ、そんな試みをアクションすることになった学生たちと、震災を「伝えたい」、「活かしたい」という思いの原動力や活動の中での迷いや気付きを考えます。特に、福島のとたちと一緒にことばを探しているチーム（彦根東高等学校）と、神戸のとたちと一緒に避難所のあり方を考えているチーム（神戸市立渚中学校）に登場していただき、次の時代に「KOBE のことばが伝わる形」を探ることとしました。

(2)成果のまとめ

「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸（1996～2005 年）」、その教訓を次世代に伝える「災害メモリアル KOBE（2006～2015 年）」に続く発展的な取組として、2016 年からは「災害メモリアルアクション KOBE」の取組を実施しています。「災害メモリアルアクション KOBE」は、大人だった世代が少なくなるさらに次の 10 年を見据えて、今後使える方法やしぐみを試行錯誤し、発見しつくる 10 年として位置づけています。今回は、午前のパネルディスカッションで学生の震災への思いを発信していく試みと、午後に特別シンポジウム「向き合い続けた 25 年、これから」を開催することで、日本が体験した震災経験を受けて、ゆくゆくは豊かな社会をつくるのに次にどう具体的に目標をつくるのかという論点へと「コンファレンス」が成長していくのではないかと結論づけました。

(3)プログラム

<第 1 部 災害メモリアルアクション KOBE 2020 活動報告会>

10:00 開会挨拶 災害メモリアルアクション KOBE 企画委員会委員長 人と防災未来センター震災資料研究主幹
京都大学防災研究所教授 牧 紀男

10:05 活動発表 神戸市立渚中学校+兵庫県立大学
兵庫県立舞子高校
滋賀県立彦根東高校
国立明石工業高等専門学校 D-PRO1135°（明石高専防災団）地域連携チーム・開発チーム
神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ

関西大学 社会安全学部 奥村研究室

12:00 パネルディスカッション「今、私が伝えたい??こと」

コーディネーター 関西大学 社会安全学部 奥村 与志弘

人と防災未来センター 研究部 高原 耕平

12:55 講評・閉会挨拶

13:00 昼休憩

<第2部 阪神・淡路大震災25年 特別シンポジウム>

14:00 オープニングコンサート 福島しあわせ運べるように合唱団

14:30 特別シンポジウム「向き合い続けた25年、これから」

コーディネーター NHK アナウンサー 大山 武人

パネリスト 人と防災未来センター長 河田 恵昭

防災学習アドバイザー・コラボレーター 諏訪 清二

京都大学防災研究所（人と防災未来センター） 牧 紀男

（その他）グラフィックファシリテーター TAGAYASU 鈴木さよ ， 滋賀県立大学 多田裕亮

(4)研究成果の公表

報告会で発表された内容等を報告書にまとめ、関係者に配付するとともに、人と防災未来センターHPに掲載。